

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和4年度 第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和4年6月20日(月) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見等

- 植林事業がほぼ終了し、下刈り事業が本格化し、伐採事業を並行して実施している。好天にも恵まれ春先からの出材は順調に推移し、製材工場の在庫は2～3ヶ月分となっているが、その分山土場の在庫は例年より少ない。工場を持っている組合は、自工場を回すため、合板向けとしていた太材を自工場に振り替えている。
国産材転換支援緊急対策事業について、道内の材が本州に移出されると、原料が少ない状況に拍車がかかり、道内にとってはマイナス面が大きいのではと懸念。
- 製材工場の原木在庫量は2～3ヶ月で例年春先の状況と同様。輸入ホワイトウッドの価格が下がり、本州から道内に持ってきた方が安い物も出ている。プレカットはウッドショックで材料不足のため、多めの在庫を確保しており、トドマツの製品の動きは若干鈍っている。製材工場の製品在庫量は適正に近い。トドマツ製品価格が下がってきており、原木が高くとも製品も高く売れる現状の状況から、今後は価格を考慮した上での製材が必要となってくる。建築関係では、住宅の落ち込みはあるが、非住宅物件の受注があるため、思ったほど落ち込んでいない。ホワイトウッド含めた輸入材や合板の今後の動向で状況が大きく変化すると思慮している。
- 素材生産請負は順調である。価格はかなり上がってきた実感があるが、今後の動向が見通せないため、道内の素材生産業者は立木購入に慎重である。林野庁は今後もウクライナ情勢やウッドショックが続くことから、今後は効率よく出材し、早く生産量を上げることを考えるとのこと。昨年主伐に近い生産請負現場では想定より1ヶ月早く完了したため、立木処分に配慮できた。そうになると生産量が必然的にあがると期待している。
- 製材工場は受注が安定し順調。原木在庫はトドマツ関連工場では比較的安定している一方、カラマツは依然不足感があり、かなり逼迫しているところもある。梱包材の価格の底上げや本州の集成材工場からの強力な集荷により、カラマツラミナの価格はここ3ヶ月で約35%、前年比170%と高騰し、強含みな状況。バイオマス関係の在庫は十分にあり、落ち着いている。各合板工場は土場及び港が満杯の状況で在庫が積み増しされており、杉は一部受け入れ制限で調整している。九州から中国への輸出が止まり、東北や中国地方に移出されている。カラマツも在庫過多で道内か

らの移出も港の置き場待ちの状況。ロシア単板の代替である米マツも順調に入荷され、当面の原料不安は全くない。ロシア単板分は減産の見込みだが、ロシア単板が中国に流れ、そのまま日本に出荷されており、合板全体量は変わらないといわれている。道内プレカットは約9割の稼働率で、価格も一部値下げが始まっている状況。輸入材のマーケットは弱含みの傾向。製材は本州の大手集成材メーカーが在庫過多で、価格を下げて販売。先行きは非常に不透明でかなり弱含んでくる想定。原料高製品安とならないよう、引き続き安定供給をお願いしたい。

- 今年度の道有林の立木販売は昨年度当初の1割増の 564,000m³ で、販売時期は昨年度同様前倒しを計画しており、上半期に9割を販売する予定。今年度5月までの入札は5物件 14,000m³ で全て落札され、例年より高値で落札された物件もあった。
- トドマツの製材について、例年4～5月は原木が不足するが、今年度は順調に入荷があった。原木の在庫も確保でき、生産についてもほぼ計画通り。原木は道外への需要があるため、引き続き心配しているが、計画数量は確保できると予想している。国産材へのシフトは中長期的に進んでいくと考えており、需要に踊らされないような形で国産材を安定的に供給していくべきである。需要の動向は短期間で変化しているの、的確に判断していきたい。
国産材転換支援緊急対策事業について、脱炭素社会で燃料に対する補助をすべきか疑問。トータルとして地域や国内にとっていい形となるように進めていただきたい。
- カラマツ製材工場の原料は依然不足しており、カラマツの出材量が一定のため、取り合いの構図。製材工場は立木の購入価格が合板工場より低く、従来の取引先も合板工場に流れざるを得ない状況。在庫は 1.2 ヶ月で推移しており、製品の受注は堅調。販売価格は昨年から3回にかけて上昇し、3割増。今後は不景気感が満載で、お盆明けには悪い方向に向かうのではないかと予想。現状原料不足のため、ぜひとも安定供給していただきたい。
国産材転換支援緊急対策事業について、増産を促すとあるが、北海道では急激な増産が難しく、結果的に横取りしていくことに繋がるため、業界全体に配慮した動きが必要と感じている。
- 苫小牧バイオマス工場は3割をチップで購入、原木在庫は 10 ヶ月分ほど。白糠バイオマス工場は全体の7割をチップで購入。北海道電力から北海道も出力抑制や制限を受ける可能性があるとの通達が入っている。
パーティクルボードは原料不足で、1週間の在庫。住宅の解体物件が減少したうえ、現在の住宅は木材の割合が昔と比べて少ないため。本州からチップを持ってきている状況で、価格は通常の3倍だが、原料がなく生産できない状態となると大幅な赤字となるため、購入を決断した。原料価格の上昇をパーティクルボードの価格に転嫁しても売れているが、この景気の動向がずっと継続するとは思わない。